

水島港長期構想委員会(第1回委員会)における主な意見

分類	内容
全体	・水島港の強み弱みについて、既に顕在している強みと、潜在している強み(ポテンシャル)を区別した上で、顕在している強みは更に伸ばし、潜在している強みはどう顕在していくかを考えることが重要 ・水島港の強み弱みについて、強みに比べて弱みが少ないため、もう少し弱みの部分の深掘りが必要
物流・産業	・コンテナ船の大型化は今後も続くと思われるので、継続的な航路の増深は必要 ・水島港は公共の岸壁や荷捌き地が少ない点が課題 ・指定保税地域を増やしてもらえれば有り難い ・玉島HIでは危険物取り扱い施設が未整備、玉島HI6号埠頭岸壁(−12m)の増深の必要性等、ハード面の弱みの記載がない ・背後地域から玉島HIへのアクセスについて、玉島HIに渡る道路は限定され、アクセス面に問題があるため、道路整備を含めた港の計画が必要 ・水島港内には、航路の水深が浅い所があり、ファーストポートで寄港できない等の支障が出ている ・船舶大型化に伴う錨地の不足を解消するため、錨地の規制緩和について対応していく必要あり ・GXやサーキュラーエコノミー、危機管理投資等、未来へ向けて時代を先取りするような投資を官民連携で行い、企業活動と港の発展が一体となるような取り組みが重要 ・港湾施設における自動化等の未来の物流をどのように導入していくか議論の必要あり ・港の利用者や企業の声を吸い上げるため、アンケートだけでなくヒアリングも十分に行ってもらいたい
脱炭素	・高炉から電気炉への変更に伴う燃料や副生成物の変化に伴い、相当量のエネルギー不足になる懸念があり、エネルギーを外から持ってこなければならない問題あり ・電気炉を製造するための用地を工場内に確保する必要がある中、工事のための余剰地も含めた新たな用地の確保が必要 ・脱炭素化を進めていく上では用地の確保が必要 ・水島港を通して炭素をどのように循環させるか、どこから持ってくるのかが重要 ・製造物の生成に伴う物流(動脈)だけでなく、廃棄物の回収に伴う物流(静脈)の拠点になれるような整備も考えていく必要あり ・水島港港湾脱炭素化推進計画で見積もられている水素をどこに貯蔵してどのように供給するかの議論も必要
環境 (自然環境)	・自然環境関連の施策について平成16年策定の長期構想からこれまでに実現出来なかった施策について原因を分析し、次の長期構想に繋げることも必要
環境 (社会環境)	・水島コンビナートで働く将来の担い手確保のため、水島コンビナートを知ってもらう機会を増やすための取り組みを考える必要あり ・長期構想を考える上で、夢物語でもいいので国内外で注目されるような活動になれば、産業の振興や人・技術の集積に繋がるのでは ・水島港が利用者や県民からどのような存在として認知されるか整理していくことが重要なポイント ・物理的な機能強化に加えて、社会における水島港の役割を再定義し、水島港の価値を県民や企業、若い世代に伝えていくことも必要 ・産業面もさることながら、観光面において夜景は重要な観光資源。水島港がより身近な存在になるような取り組みを通し、ブランド力を向上させ、人材確保に繋げていくことが重要 ・港の認知度が低く、人材確保が困難な状況にあるため、人材確保のために、安全で快適な労働環境を実現するような視点を盛り込むことが必要 ・水島港の魅力を伝えるコンテンツを過去に作成したことがある。事務局のほうで内容確認のうえ、次回の委員会で提示してもらえると良い ・港の広報や宣伝活動を計画に盛り込むような検討が重要
安全・防災	・港湾施設の老朽化に対してどのように対処していくか議論の必要あり ・気候変動に伴う海水面上昇に対応するため、協働防護について検討していく必要あり